

今回は日本鋼管・技術研究所の ESR 操業見学の機会を得、有意義に会を進めることができた。

第3回第6分科会 開催日：11月20日。出席者：後藤部会長、渡辺主査、ほか10名

本分科会は特殊精錬技術に関する文献集録がテーマであり、そのうちで ESR についての文献整理を行なっている。

現在は昭和47年度末までの分を中心に、欧文492件、和文140件の文献整理がほぼ完了した。

今回の分科会での確認事項は、最終文献カード作成および ESR 文献集の編集要領について討議した。

また、配布方法については、文献集は市販するものとし、約200～250部を予定している。一方、文献カードは委員全員にアンケートを配り希望を確認のうえ、その必要部数を決定することにした。

本分科会の始まる前に、第5回 ESR および特殊精錬技術国際シンポジウム概況報告を、大同の小野氏、日本

鋼管の榊井氏にやつていただき、現状の動向についての報告を傾聴した。

鉄鋼工学講習会検討委員会

第5回委員会 開催日：12月2日。出席者：加藤主査、ほか13名

鉄鋼工学講習会（仮称）の必要性ならびに運営方法などについて、アンケートを行ない検討を進めてきたが、今回、具体的に製錬（製鉄・製鋼）、材料の部門別に担当委員が作成してきた運営案について、活発な意見が出された。基本的には担当委員の案が了解されたので、今後内容の補削については実行委員会で検討することにした。

なお、本委員会の名称は「鉄鋼工学セミナー検討委員会」と改名することが決定された。

欧文誌「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」の月刊発行についてのお知らせ

本会では欧文誌 Transaction of The Iron and Steel Institute of Japan (Transactions ISIJ) を昭和50年（1975年）1月から月刊誌として刊行することになりました。本誌は昭和36年（1961年）に季刊で「Tetsu-to-Hagan⁶ Overseas」として創刊後、昭和41年（1966年）より現在の名称に改め、隔月刊となり今日にいたつたものであります。

最近本誌への投稿原稿数が増加しております。これは国内、国外からの投稿によるものであることはもちろん、本会の共同研究会をはじめ各研究委員会への成果発表の働きかけなどの編集活動の強化の現われと考えられます。

とくにわが国の高い鉄鋼生産技術に関係した学術、技術論文、Review 論文などは広く国際的な注目を集めています。編集委員会は今後も積極的にこのような記事の掲載につとめます。

本誌の海外読者は発刊以来着実に増加しており、掲載論文の引用される機会もしだいに増えてきております。これらは本誌が国際誌としての評価を高めていることを示すものと考えられます。

Transaction ISIJ を月刊誌とするにあたり、ますます本誌の権威を高め、サーキュレーションをより広めるための活動を積極的に推進する方針であります。このために、斬新な優れた Original Paper を多数掲載する必要があります。会員各位が研究成果を奮ってご投稿下さることを期待しております。

本会では「鉄と鋼」と「Transactions ISIJ」の両誌を希望される会員に限り「特別料金」を設けておりますので、月刊誌移行を機に新たに「Transactions ISIJ」をご愛読いただくことを合せて期待いたします。